

# 近隣住民の方々への配慮：騒音・振動対策

当該計画地は、地盤が緩いため、杭・土工事時や大型車両走行時に近接エリアに振動が起こる可能性があります。起こりえる振動に対して、事前に対策を講じていきます。

## 想定される主な騒音・振動

- 杭工事時の騒音・振動・・・中掘工法【振動レベル参考値 約 60～70dB】
- 大型車両走行時の騒音・振動・・・現場場内【振動レベル参考値 約 50～60dB】
- 大型建設機械作業時の騒音・振動・・・バックホウ【振動レベル参考値 約 65～75dB】

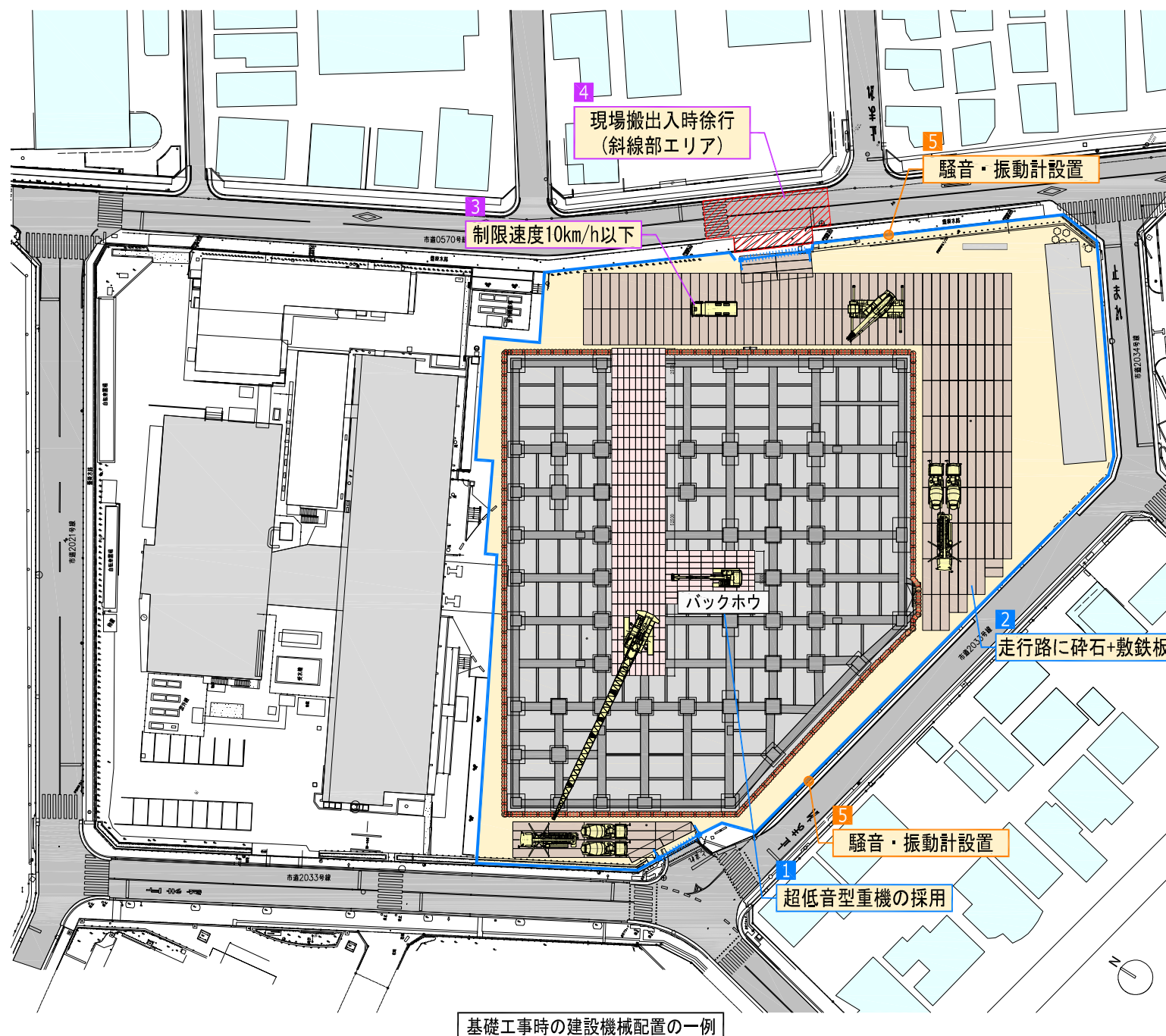
※1) 振動レベル参考値は、作業場所から7m離れた地点の値です。(環境省の資料より引用)

※2) 地盤特性により振動の伝わり方は変わります。

※3) 機械の違いにより振動の大きさは変わります。

例：地震の震度 震度1：55～65dB 震度2：65～75dB

## 近隣住民の生活環境保全に配慮した施工計画



基礎工事時の建設機械配置の一例

近隣住民の方々の生活環境を保全するため、事前に検討した騒音・振動低減対策を実施いたします

## 具体的な騒音・振動低減対策

### 【技術的な対策】

#### ・杭工法に騒音・振動が比較的小さな工法を採用

- ・杭の中空部にオーガーを挿入し掘削しながら杭を所定の深度まで埋設する工事(中掘拡大根固め工法)となるため打撃工法に比べ騒音・振動が比較的小さい工法です。

※杭工事については、約深度50mまで掘削するため地中障害等により大きな騒音・振動が発生する場合があります。

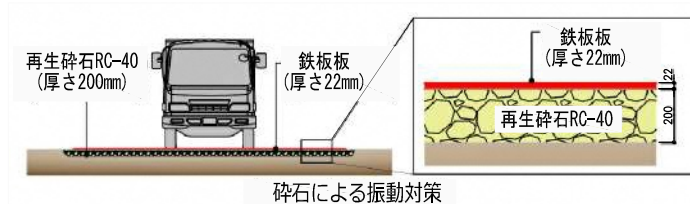
#### ・工事内容に適した建設機械の選定 1

- ・重機・工具・発電機などは低騒音・低振動型を採用し特にバックホウは超低騒音型を採用することで、騒音を約6dB低減します。
- ・騒音や振動が大きな作業は原則午前8時30分から午後5時30分までとして、作業音・振動にも配慮します。



#### ・大型車両走行路は砕石を敷いて走行時の騒音・振動低減 2

- ・大型車両走行路には、クッション性のある再生砕石RC-40(厚さ200mm)で締め固めた上に、敷鉄板(厚さ22mm)を設置することで、振動を約10dB低減し、さらに主要部においては鉄板同士を溶接固定することで騒音・振動を抑制します。



#### ・騒音・振動の原因となる地盤沈下対策

- ・杭打機走行路については、地盤を堅固にするために固化材を用いて改良することにより地盤に不陸が生じにくくなり、騒音・振動の発生を抑制します。

### 【工事中の騒音・振動管理】

#### ・騒音・振動を測定して工事を管理 5

- ・騒音・振動計を東側・西側(境界際)に設置します。数値は多くの人の目につくように表示し、条例に定める基準値(騒音85dB、振動75dB)よりも5dB低い値(騒音80dB、振動70dB)で管理します。

※工事着工後は、工事中・休工中の騒音・振動を把握して騒音・振動低減対策に反映していきます。



騒音・振動計設置例

### 【人為的な対策】

#### ・作業方法の改善

- ・適切な建設機械の操作を行うように指導管理します(丁寧な重機操作)
- ・建設機械は低速走行とします。

#### ・現場場内(構内)の制限速度厳守 3 4

- ・現場場内は工事車両の制限速度を10km/h以下とします。
- ・斜線部エリアでは徐行するように指導管理していきます。

#### ・重機の台数削減と配置計画

- ・重機の台数を削減して振動・騒音発生源を減らします。
- ・境界際での建設機械作業を減らすことにより、振動・騒音発生源を極力遠ざけて距離減衰による効果を発揮させます。

#### ・作業員、工事車両運転手の意識向上

- ・協力業者が事前に行う『送り出し教育』と現場で行う『新規受入教育』を実施することにより作業場内でのルールの徹底を図ります。
- ・場内看板、表示等での『見える化』を行う事により作業員の意識改善に努めます。

#### ・近隣住民の方々へのお知らせ

- ・騒音・振動が発生する工事を行う際は、仮囲いに設置する掲示板等でお知らせを致します。近隣住民に寄り添った現場運営を心掛けてまいります。



例：騒音・振動対策表示



例：新規受入教育

騒音・振動に対しては、日常管理を注意深く行っていますが、近隣住民の方々でお気づきの点がございましたら気兼ねなくお声掛け下さい。誠意をもって対応を検討させていただきます。近隣住民の方々から工事に対する理解と協力を得られるように最善をつくしてまいりますので宜しくお願い致します。